

2023年度 入学試験

A日程

国語

解答について

- 1 受験番号はすでに印刷されています。自分の受験番号であることを確認し、出身中学、氏名を記入しなさい。
- 2 解答に当たっては、各問題について正しい解答を選び、その番号を該当する問題番号の解答欄にマークしなさい。

例えば 問二 C の正解が ④ の場合、解答欄に次のようにマークしなさい。

問題番号			解答欄									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
<input type="checkbox"/>	問二	C	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

もし、まちがってマークした場合には、プラスチック消しゴムで **あとが残らないように** 確実に消しなさい。

京都先端科学大学附属高等学校

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(作問の都合上、一部表記を改めた箇所があります。)

意外なことかもしれないが、力強さや美しさなどの印象判断の多くは、(ア)動物の時代に形成された「感情を司る機構」に由来している。

雄ジカは立派な角を見せつけて、生殖の相手となる雌を他のライバル雄と争う習性がある。この「見せつけ」を動物行動学では、ディスプレイ行動と呼ぶ。強い雄が、より多くの雌を獲得できるという構図は、哺乳類に広くみられるが、シカでは「立派な角」が強さのディスプレイになっているのだ。

A、北半球に広く分布しているアカシカの行動観察によれば、雄ジカ同士が鉢合わせしたとき、実際に角をつき合わせて戦うことは少なく、通常は角を見せ合うことで勝負がつく。実際に戦ってしまえば双方が傷を負う(イ)リスクが高いので、角を見せ合うことで勝負をつけるのは、多くのアカシカが生き残るうえでの有効な方法なのである。

(ウ)「立派な角」が進化してきた過程は次の通りである。B、角をつき合わせて戦うことで雌を取り合う習性が生じる。C、角が貧弱な個体は、戦っても傷を負うばかりであるので、角の立派さを判断して戦わずに退散する習性が生まれる。すると、戦いの強さよりも立派な角の方が雌をめぐる争いに有効になる。D、戦いには不利になるくらいの、大きくて重い角が発達する、という具合である。

実際、大きくて重い角を持っている雄のほうが健康であると言えるので、雌ジカから見ても、立派な角は健康の指標になる。E「立派な角を好む」判断機構がいったん生じると、その機構を持っている雌ジカのほうが健康な雄と交配して健康な子どもを設けやすく、判断機構の遺伝によって子孫に「立派な角を好む」特性が広まる。これが、立派な角の雄を好むような進化が生じる仕組みである。

けっして「立派な角を持ちたい」と雄ジカが考えたから進化するのではなく、(エ)機械的な遺伝メカニズムによって進化が起きることに留意されたい。そして、私たち人間から見ても、シカの角が立派に見える事実、何か立派なものを好む感情的な判断機構が哺乳類全般に広く機械的に遺伝していることを物語っている。

こうして立派な角は、力強さと健康の象徴となったのである。ところが、もしシカに、他のシカの角を拾って自分の角に結びつける知恵があったとしたらどうだろう。もはや立派な角は、その個体の力強さと健康の象徴とはならず、フェイクに転じてしまう。つまり、力強さと健康の象徴は、それを装う知恵が生まれない範囲で有効な仕組みなのである。

アフリカに多く棲息するコクホウジャクは、雄だけが立派な尾羽を身につけている。コクホウジャクの場合は、尾羽によって雄同士で戦うわけではないので、アカシカの角のような力強さではなく、「美しさをディスプレイしている」と解釈できる。

コクホウジャクでは、雄が自分のなわばりに複数の雌をかこつてそれぞれ卵を産ませるのであるが、このなわばり内の巣の数をめぐつて興味深い「フェイク尾羽実験」が行われている。すでに、雄のなわばり内の巣の数は、尾羽が長いコクホウジャクでは多く、尾羽が短いコクホウジャクでは少ないことが知られていた。

そこで、生物学者のアンダーソンが両者の尾羽を切つて交換してくつつけてみたのである。その結果、尾羽が短くなったコクホウジャクではなわばりの巣の数が減り、尾羽が長くなったコクホウジャクでは巣の数が増えたのである。雌は雄の尾羽を手がかりにして配偶相手を決めており、フェイクの尾羽でも雌がひつかかることが明白になった。【I】

鳥が長い尾羽をもつと体重が増えて飛びにくくなり、生存に不利になってしまう。それにもかかわらず長い尾羽が進化するのには、雌がより長く立派な尾羽をもつ雄を選択するからだ。この雌による選択傾向が生物種に広まると、長く立派な尾羽が健康の指標にもなる。なぜなら、体重が増えて飛びにくいにもかかわらず生活できている「長い尾羽の雄」は、健康であるにちがいない。また、そもそも健康を害していれば尾羽がみすぼらしくなってしまうだろう。【II】

こうして、長く立派な尾羽は「美しさと健康の象徴」となる。コクホウジャクの場合は「美しさを好む」判断機構は雌に顕著にみられるが、鳥の種類によつては雌にも雄にも両方に見られる。判断機構は雌雄に関係なく、遺伝によつて子どもに引き継がれるので、それは驚くことではない。その結果、コンゴウインコのように雌も雄もきらびやかな羽毛をまとつた鳥も多く知られている。【III】

きらびやかな羽毛のコンゴウインコは、ペットとしての人気が高い。この事実は、鳥がもつ「美しさを好む」判断機構と同様の機構が、人間にもあることを示している。【IV】

ただ、鳥は羽毛を装うことはできないが、人間は服装によつて見かけを装うことができる。顔もシミやシワを目立たないように化粧して、年齢によるリアルな衰えも隠すことができる。このように、見かけの美しさをとりつくり行う行為が蔓延すれば、人間の見かけの美しさは「健康の象徴」となりにくく、見かけの装いは「フェイク」とされる可能性が生じる。【V】

ところが、そもそも人間社会では保健や医療が発展しており、健康維持や病氣治療が効果的に行われている。若く頑強なアスリートが突然重い病に倒れるが、高度医療によつて再度復活も果たせる時代である。現代では、人間同士で相手の健康状態を見かけから推し測る意義は低くなつてきている。すると、動物の時代に「美しさ」の判断基準が生物種の維持に必要な「健康度合いの判断」に使われていた

のに対し、^(キ) 今日ではただ「美しさ」のみの、なかば娯楽的な機構となりつつある。

こうして、芸能人がテレビに出演するときは「みんなメーカーキャップして着飾っているよね」という認識があたり前になり、見かけの装いは「美しさの演出」であり、誰もフェイクと思わなくなってくる。さらに、見かけの装いが安価に行えるのであれば、「身だしなみ」と位置づけられるほどの気軽な行為となるのである。

これが、リアルを装う人間の知恵がフェイクをもたらし、そして、そのフェイクが広まると一部で演出に転じる背景である。

(石川幹人『だからフェイクにだまされるー進化心理学から読み解く』)

注 尾羽……鳥の尾と羽。

問一 —— (ア) 「動物の時代に形成された『感情を司る機構』」の説明として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、

その番号をマークしなさい。

- ① 雄ジカのように、立派な角を見せつけて、他のライバル雄と争うようなディスプレイ行為をしようとする習性。
- ② 「立派な角」のように立派なものを好む感情的な判断機構が哺乳類全体に広く機械的に遺伝している状況。
- ③ 長く立派な尾羽が「美しさ」と健康の象徴」となるように、「美しさを好む」判断機構が雌に顕著にみられる事実。
- ④ 鳥のもつ「美しさを好む」判断機構と同様の機構によってペットを選ぶとするとする意識。
- ⑤ 「立派さ」や「美しさ」の判断基準が生物種の維持に必要な「健康度合いの判断」に使われる仕組み。

問二

A	～	E
---	---	---

 に当てはまる語を次の①～⑤の中からそれぞれ選び、その番号をマークしなさい。

- ① しかし
- ② そのため
- ③ たとえば
- ④ まず
- ⑤ ときには

問三 —— (イ) 「リスク」の意味として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 危険性
- ② 現実味
- ③ 痛み
- ④ 状況化
- ⑤ 事件性

問四 —— (ウ) 「立派な角」が進化してきた過程」に含まれないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 雄ジカの間、角をつき合わせて戦うことで雌を取り合う習性が生まれた。
- ② 角の貧弱な個体が、角の立派さで判断して、戦わずに退散する習性が生まれた。
- ③ 戦いの強さよりも角の立派さの方が争いに有利になるため、大きくて重い角が発達した。
- ④ 立派な角を好む雌ジカのほうが健康な子どもを設けやすく、遺伝によって立派な角を好むようになった。
- ⑤ 立派な角は健康の指標として雌の判断基準となり、雄ジカが立派な角を持つようになった。

問五 —— (エ) 「機械的な遺伝メカニズム」とは何か、その説明として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 雌ジカの判断機構の遺伝によって立派な角を好む特性が広まる仕組み。
- ② 健康の指標である立派な角を雌ジカが好むことで、好みが子孫に遺伝する仕組み。
- ③ 雌ジカの好みが健康な子孫を残すことにつながり、雄ジカの角が大きくなる仕組み。
- ④ シカ同様、人間にも見られる哺乳類全般に広く判断機構として伝わる仕組み。
- ⑤ 立派な角が力強さと健康の象徴として遺伝子に組み込まれていく仕組み。

問六 —— (オ) 「興味深い、ブレイク尾羽実験」とありますが、実験内容の説明として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 雄の尾羽の長さによって、雄のなわばり内の巣の数が顕著に増減する実験。
- ② 尾羽の長さの違う雄の尾羽を交換することで、なわばり内の巣の変化を確認する実験。
- ③ 尾羽の長さの違う雄の尾羽を切って交換し、健康状態の変化を確認する実験。
- ④ 雌が雄の尾羽の長さを手がかりにして、配偶相手を決定することを確認する実験。
- ⑤ 長く立派な尾羽が健康の指標になるのかを、雄の尾羽の交換で確認する実験。

問七 本文からは次の文が抜け落ちています。本文中の【Ⅰ】～【Ⅴ】のどの位置に補うべきですか。最もふさわしい場所を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

つまり、人間も美しさを手がかりにして、ペットを選ぶだけでなく、配偶者や仕事上のパートナーを決めている可能性が高いのである。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】 ⑤ 【Ⅴ】

問八 —— (カ) 「それ」の指す内容として、最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 鳥にとって立派な尾羽が「美しさ」と健康の象徴」となること。
- ② コクホウジャクの雌に「美しさを好む」判断機構が顕著にみられること。
- ③ 鳥の種類によっては「美しさを好む」判断機構が雄雌両方に見られること。
- ④ 判断機構が雌雄に関係なく、遺伝によって子どもに引き継がれること。
- ⑤ コンゴウインコのように雌雄ともにきらびやかな羽毛をまとっていること。

問九 —— (キ) 「今日ではただ『美しさ』のみの、なかば娯楽的な機構となりつつある」とありますが、なぜ、「娯楽的」と言える

のですか、その理由として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 人間は服装や化粧で年齢を隠すことができるので、見かけの美しさは「健康の象徴」とはならないから。
- ② 見かけの美しさをとりつくり行う行為は、フェイクであり、その中には遊び心が含まれているから。
- ③ 人間社会では保険や医療が発展しているのので、健康維持や病気治療が行われ見かけは必要ないから。
- ④ 高度医療によって重い病からも復活できるので、見かけは生物種の維持の判断に必要とされないから。
- ⑤ 人間社会では、医療の発達で見かけから相手の健康状態を推し測る意義が低くなってきているから。

問十

本文の内容と合致していないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 強い雄がより多くの雌を獲得できるという構図は哺乳類に広くみられる。
- ② 立派な角を持つ雄ジカは、雌ジカから健康な雄と見なされる。
- ③ コクホウジャクは尾羽の長さで、雌から健康であると判断される。
- ④ 人間の見せかけの美しさは「健康の象徴」ではなく、すべてフェイクである。
- ⑤ 人間の見せかけの装いはフェイクから「美しさの演出」へと変化していく。

次の文章を読んで、後の間に答えなさい。(作問の都合上、一部表記を改めた箇所があります。)

漢文の世界では「てんまる」を「句読」と呼びます。このリズムを体得すると、「てんまる」がなくても読めるようになるのです。なぜかということ「てんまる」との関係からいえば、それは、漢文は「リズム」で読む言葉だからです。

漢文は、リズムで読みます。今ではあまり行なわれなくなりましたが、「詩吟」なども、漢文を読むためのリズムの一つですが、漢詩でなくても江戸時代までは、漢文を読むための独特の節回しがそれぞれの藩などに伝わっていました。

こうしたリズムを復活させて身につければ、漢文はさらに読みやすくなるかと思いますが、そうでなくても、自分なりに大きな声で読んでみると、自然に、我流ではあっても「漢文訓読調もどき」のリズムはできてくるのではないかと思います。

ところで、漢文の原典にはまったく「てんまる」はついていませんが、読んでみると「たぶん、ここで文章が区切られているのだろうな」という(A)カンが働き、次第に(B)視覚的に見えてくるようになります。

例えば、「也」「焉」「矣」「兮」「乎」などの字があると、そこで文章が切れているはずですが。そして往々にしてこれらの字は「まる」の役割を果たしています。

また、「則」「而」「者」などがあれば、ここで一度文章が切れて、次に繋がる、つまり「てん」の部分になるでしょう。

(イ) 学而時習之不亦説乎「学びて、時に之を習ふ、亦た説ばしからずや」(『論語』学而篇)

享保中有義偷焉「享保中に義偷(貧しい人にお金を遣るために金持ちから金を盗む盗賊)有り」(『本朝虞初新誌』)

難しそうに見える「てんまる」がない漢文でも、やはり、「人に読んでもらわれないといけない」文章には変わりません。どこで文章が切れるかという目印は、ついているものなのです。

少し、和歌を読んでみましょう。できれば、音読してみてください。

山桜 我が見に来れば 春霞 峰にも尾にも 立ち隠しつ

世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし

夏の夜の 臥すかとすれば ほととぎす 鳴く一声に 明くるしのめ

秋の野に 人まつ虫の 声すなり 我かと行きて いざ訪らはむ

いずれも、(ウ)『古今和歌集』(九〇五年奏上)にケイ(B)サイされている歌です。

「てんまる」はなくても、読めるのではないのでしょうか。

でも、「読む」ためには、どうしても声に出してみる必要がありますか？

和歌は、「五七五・七七」のリズムで作られているという原則を知っていれば、「てんまる」などなくても、和歌は、「読む」ことができるのです。発句や俳句も同じですね。

野ざらしを 心に風の しむ身哉 松尾芭蕉

我と来て 遊べや親の ない雀 小林一茶

(五) 柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺 正岡子規

方言かなし 莖に語り 及ぶとき 寺山修司

発句俳句は、「五七五」ですから、このリズムで読めば、時には字余り、字足らざるかもしれませんが、基本的には「てんまる」は要りません。

漢詩はどうでしょうか。

江碧鳥逾白山青花欲然今春看又過何日是帰年

漢詩を読む時は、まず、使われている漢字の数を数えてみます。

前の例は二十字あるので、五で割って、五言絶句であるということが分かれば、後はカン(C)タンです。

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾よ白く

山青花欲然 山青くして花然えんと欲す

今春看又過 今春看す又過ぐ

何日是帰年 何れの日か是れ 帰年ならん

〔川は深緑色に流れ、鳥は遠く飛んで見えなくなる。山は新緑で、花は燃えるように赤く咲き(D)ホコる。今年の春も見ているうちに過ぎ去るのだろう。いったいいつになればコ(E)キョウに帰ることができるのだろうか―筆者訳〕

漢詩を含め、定型詩は「てんまる」などなくても読めるものなのです。それは、なぜか——いうまでもなく、決まったリズムがあるからです。

(山口謠司『てんまる―日本語に革命をもたらした句読点』)

問一 —— (ア)「視覚的に見えてくる」とありますが、その説明として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 音読の際に読みやすい区切りは人によって異なり、音読を続けることで読みやすいリズムが文章を見ただけでわかること。
- ② 文章を読むときに単語を意識することで区切りを見つけることができ、「てんまる」をわざわざ打たなくてもわかること。
- ③ 「てんまる」がついていなくても、リズムをつかむことで文章のどの部分で切れるのか見ただけでわかるようになること。
- ④ 漢文を繰り返し読み返すことで「てんまる」がついていなくても、文章の切れる目印がわかるようになること。
- ⑤ 漢文はリズムで読むことができるので、特定の節回しができるようになれば「てんまる」がなくても区切りがわかること。

問二 —— (イ)「学而時習之不亦説乎」に返り点を打った場合、最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 学_レ而時_レ習_レ之不_レ亦説_レ乎
- ② 学_レ而時_レ習_レ之不_二亦説_一乎
- ③ 学_レ而時_レ習_レ之不_レ亦説_レ乎
- ④ 学_レ而時_レ習_レ之不_二亦説_一乎
- ⑤ 学_二而時_レ習_レ之不_二亦説_一乎

問三 —— (ウ)「古今和歌集」の歌人を、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 柿本人麻呂 かきのものひとまろ
- ② 藤原定家 ふじわらのさだいえ
- ③ 西行法師 さいぎょうほうし
- ④ 紀貫之 きのつらゆき
- ⑤ 山上憶良 やまのうえのおくり

問四 ——— (エ) 「柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺」について次のように話し合いました。

Aさん 「確かに、俳句は『てんまる』がなくても読むことができますね。」

先生 「俳句の意味や調子の切れ目である『句切れ』を意識してみましよう。『かな』や『けり』などの切れ字に注目するの
も一つです。」

Bさん 「この俳句の場合、I」

先生 「その通りです。この俳句以外に正岡子規のほかの作品も調べてみましょう。」

Aさん 「正岡子規が病床でよんだ冬の俳句として II という作品も有名ですね。」

(1) 空欄 I に当てはまる文として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「柿食へば」で「てん」を打つことができるので、この句は初句切れです。
- ② 「鐘が鳴るなり」で「まる」を打つことができるので、この句は二句切れです。
- ③ 切れ字が使われていないので句切れなしです。体言止めを使うことで法隆寺を強調しています。
- ④ 倒置法が使われているので句切れなしです。語順を変えることで鐘の音を強調しています。
- ⑤ 「柿」が季語となっています。季語を強調するので、この句は初句切れです。

(2) 空欄 II に当てはまる作品として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 分け入つても分け入つても青い山
- ② 赤い椿つばき白い椿と落ちにけり
- ③ 流れ行く大根の葉の早さかな
- ④ 萬緑ばんりよくの中や吾子あこの齒生そえ初はむる
- ⑤ いくたびも雪の深さを尋ねけり

問五

本文の内容に合致するものとして最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 漢詩・和歌・俳句は、音数や字数が決まっているので「てんまる」がなくても区切りがわかる。
- ② 漢詩・和歌・俳句は、声に出して読むことを前提として作られているのでリズムをつかめば「てんまる」は不要である。
- ③ 漢詩・和歌・俳句は、音読する際に、人によって区切りが異なるため「てんまる」を打つ必要がある。
- ④ 漢文では決まった文字が「てんまる」の働きをしていたため、文章に「てんまる」を打つ習慣がなかった。
- ⑤ 音読の際に「てんまる」は不要であったが、誰でもが読みやすい文章にするために「てんまる」を打つようになった。

問六

——(A)～(E)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

(A) カン

- ① 活動にカンユウする。
- ② 洗濯物をカンソウさせる。
- ③ 初志をカンテツする。
- ④ お年玉をカンジョウする。
- ⑤ 現金にカンキンする。

(B) ケイサイ

- ① 船に荷物をセキサイする。
- ② 半世紀のサイゲツが流れた。
- ③ 返事をサイソクする。
- ④ 布をサイダンする。
- ⑤ 難民をキユウサイする。

(C) カンタン

- ① 父がタンセイこめて育てた花。
- ② 日頃のタンレンの成果が出る。
- ③ タンパクな味付けを好む。
- ④ ダイタンな筆づかいで描く。
- ⑤ タントウ直入に質問する。

(D) ホコ

- ① コヨウ者を増やす。
- ② 話をコチョウして伝える。
- ③ コテキ隊の行進がつづく。
- ④ 群れからコリツした象。
- ⑤ 貯水池がコカツする。

(E)

コキヨウ

- ① キヨウチユウを打ち明ける。
- ② キヨウジユツ書をまとめる。
- ③ キヨウリの母に手紙を出す。
- ④ 初優勝にキヨウキ乱舞する。
- ⑤ 他社とキヨウゴウする。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

(ア)上東門院、(イ)一条院の女御たりし時、帳の中に の子、不慮のほかに入りてあり。見つけて大いにあやしみ恐れては入道殿に (A) 申さる。入道殿、匡衡を召して密々にこの事を (B) 語らしめ給ふに、匡衡申して云はく、「(ウ) いみじき御慶賀なり」と申すに、入道殿、「何故ぞや」と仰せらるるに、匡衡、申して云はく、「皇子出で来たらしめ給ふべき徴なり。 の字は、これ点を大の字の下に付くれば、太の字なり。上に付くれば、天の字なり。これをもつて思ふに、皇子出で来給ふべし。さて、太子に立ち、必ず天子に至り給はんか」と。入道殿大いに感ぜしめ給ふ間、ご懐妊有り。後朱雀天皇を産み奉らしむるなり。この事秘事なり。退席の後、匡衡私かに件 の字を考へしめて、(C) 家に伝へしむるなり。

注 上東門院……藤原彰子。道長の子。 帳……室内や外部との境などに垂らして、区切りや隔てとする布。

不慮のほか……思いがけなく。 入道殿……藤原道長。 匡衡……大江匡衡。江談抄の作者、大江匡房の曾祖父。

御慶賀……喜び事。 秘事……人に容易には教えない学問の奥義。

(『江談抄』)

問一 —— (ア)「上東門院(じやうとうもんゐん)・(イ)「一条院(いちでうゐん)」を現代仮名遣いに直したものととして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① じやうとうもんゐん・いちじょういん ② じょうとうもんゐん・いちでうゐん
- ③ じょうとうもんゐん・いちじょういん ④ じやうとうもんゐん・いちでふゐん
- ⑤ じょうとうもんゐん・いちじょうゐん

問二 に入る漢字として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 大 ② 天 ③ 犬 ④ 人 ⑤ 友

問三 —— (A) ～ (C) の主語を次の①～⑤の中からそれぞれ選び、その番号をマークしなさい。(同じものは使えません。)

- ① 上東門院 ② 一条院 ③ 入道殿 ④ 匡衡 ⑤ 後朱雀天皇

問四

—— (ウ) 「いみじき御慶賀なり」は「たいそうすばらしい喜び事だ」という意味ですが、その理由として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 不慮のほかに入りてあり。
- ② 大いにあやしみ恐れて
- ③ 皇子出で来たらしめ給ふべき微なり。
- ④ 太子に立ち、必ず天子に至り給はん
- ⑤ ご懐妊有り。

問五

『江談抄』について学さんと京さんが話し合っています。次の会話を読んで後の問に答えなさい。

学さん 「『江談抄』は大江匡房の話をまとめた説話集で、漢詩文や音楽など様々な分野の話が収録されているよ。」

京さん 「大江匡房は本文に出てきた大江匡衡のひ孫よね。」

学さん 「そうだね。この話も曾祖父の匡衡のために伝えたことみたいだね。」

京さん 「自分の子孫に [] を伝えようとするなんて、家族思いだったのね。」

学さん 「大江匡衡はほかにも、夢占いで藤原兼家が関白になることを当てたことが『江談抄』に書かれているよ。」

京さん 「自慢の曾祖父だったのでしょうね。」

学さん 「『江談抄』についてもっと調べてみよう。」

(1) [] に入る語として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 慶賀
- ② 皇子
- ③ 懐妊
- ④ 秘事
- ⑤ 件の字

(2) 大江匡衡の妻は上東門院に仕えた女房ですが、同じ上東門院に仕えた人物に『源氏物語』の作者がいます。『源氏物語』の作者を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 清少納言
- ② 紫式部
- ③ 小野小町
- ④ 式子内親王
- ⑤ 兼好法師

問題は以上です

2023年度 A日程 国語

受験番号

マーク例
 良い例
 悪い例

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
一	問一 4点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二	A	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		B	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	2点 ×5	C	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		D	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		E	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問三 3点	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	4点 ×7	問四	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		問五	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		問六	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
問七		①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
問八		①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
問九		①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
問十		①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
二	問一 4点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二 4点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問三 2点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	3点 ×2	(1)	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		(2)	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問五 4点	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	2点 ×5	A	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		B	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		C	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		D	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
E		①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
三	問一 3点	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二 4点	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	3点 ×3	A	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		B	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		C	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問四 4点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問五	(1) 3点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		(2) 2点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

出身 中学	氏名
中学校	